

認知症高齢者グループホーム四季の花

(別紙6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年5月22日

【評価実施概要】

事業所番号	0991300013		
法人名	社会福祉法人同愛会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム四季の花		
所在地	栃木県那須塩原市一区町281-71 (電話) 0287-36-8995		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年4月30日	評価確定日	平成20年5月22日

【情報提供票より】(平成20年4月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤8人(うち兼務2人), 常勤換算4.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 1階建ての1階部分		
------	-----------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	・水光熱費—12,000円 ・理美容代—実費 ・おむつ代—実費	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,600 円			

(4) 利用者の概要(平成20年4月16日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名	
要介護1		名	要介護2		1 名	
要介護3		5 名	要介護4		2 名	
要介護5		1 名	要支援2		名	
年齢	平均	85 歳	最低	79 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	那須中央病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームはJRの駅から車で5分ほどの住宅地の中にある。自然な近所づきあいの中で地域の方々との関係を築いてきており、訪問時には近所の方と気軽に挨拶を交わしている様子が見られた。管理者・職員からは、「本人らしさ」「一人ひとりの個性を大切に」という言葉が聞かれた。トイレの前にはマットが敷いてあり、「目印を置くにしても入居者の目線で分かりやすいように」と説明されたが、このことから入居者側に立ったサービスの提供を心掛けている様子がうかがえる。玄関周りには季節の花が咲き乱れ入りやすい雰囲気があり、近所の方々との肩ひじ張らない付き合い方など、法人の理念のキーワードでもある「地域生活」を目指している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価からは、職員会議を月1回定期的に開催するようになり、ちょっとした時間での話し合いも含めて職員間の意思疎通がよりできるようになっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は職員に自己評価票を見てもらい、意見を聞いて管理者がまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	メンバー構成は、入居者、入居者家族代表、自治会長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員となっている。昨年度は2回開催した。ホームからは運営状況や活動報告をし、参加者から助言をもらっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問の際や必要に応じて電話などで暮らしぶりや健康状態を伝えている。預かり金は家族の訪問の際に確認してもらっている。アルバムをつくっている。ホームの苦情相談窓口及び市の苦情受付窓口を重要事項説明書に明記し、苦情ポストなども置いている。要望は職員が聞くことも多く、できるものはすぐに対応し、管理者に報告するようになっている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームで草取りをしている時や近所の方が犬の散歩をしている時などに声をかけている。ホームに寄ってくれたり、おすそわけをもらうなど自然な形での近所づきあいができてきている。訪問時にも、近所の方と気軽にあいさつを交わす職員の姿が見られた。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域生活」をキーワードとした法人の基本理念、基本運営方針をホームの理念としている。パンフレットには「人と人とのかかわりを大切に、地域において豊かに生きるうおいのある社会に…」 「その人らしさを活かせる生活を支援します」等の言葉が明記されている。	○	法人理念を大切にしながら、立地や職員の思いなど、当ホームならではの「大切にしたいこと、すべきこと」を職員間で話し合い、日々の実践の中から独自の理念をまとめあげていくことにも期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送りや月1回の職員会議で確認をしながら地域との関わりなど、理念の実現に向けて日々取り組んでいる。職員からは、一人ひとりの個性を大切にしているということが聞かれた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームで草取りをしている時や近所の方が犬の散歩をしている時などに声をかけている。ホームに寄ってくれたり、おすそわけをもらうなど自然な形で近所づきあいができてきている。訪問時にも、近所の方と気軽にあいさつを交わす職員の姿が見られた。	○	「地域生活」を大切にしていることから、ホームとしては「まだまだ」という気持ちが強い。また、今年目標として保育所や小学校との交流なども考えている。理念の実現に向けて今後も様々な取り組みをしていくことに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価からは、職員会議を月1回定期的に開催するようになり、ちょっとした時間での話し合いも含めて職員間の意思疎通がよりできるようになっている。今回の自己評価は職員に自己評価票を見てもらい、意見を聞いて管理者がまとめた。	○	今後、各職員も自己評価を行い、それぞれの捉え方や考え方の同異を話し合い、職員間の意識合わせや目標などの共有に活かしていくことを期待したい。

認知症高齢者グループホーム四季の花

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバー構成は、入居者、入居者家族代表、自治会長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員となっている。昨年度は2回開催した。ホームからは運営状況や活動報告をし、参加者から助言をもらっている。	○	形式にこだわらない開催の仕方などの助言をもらっている。全メンバーが参加できるような日程のあり方、内容の工夫などをしながら、意見や助言をもらえるような工夫を期待したい。また、保育所や小学校の先生、おまわりさんなどに参加を呼びかけることも考えているので、期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には本庁職員のほか、支所職員にも参加してもらっている。また、市が立ち上げたサービス事業所連絡協議会などの場もある。会議等の場のほかでも、行き来する関係ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問の際や必要に応じて電話などで暮らしぶりや健康状態を伝えている。預かり金は家族の訪問の際に確認してもらっている。アルバムをつくっている。	○	今年度の目標として、絵はがきに取り組むことを考えている。これと併せて、職員の異動なども含めて定期的な報告の手法について検討していくことを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの苦情相談窓口及び市の苦情受付窓口を重要事項説明書に明記し、苦情ポストなども置いている。要望は職員が聞くことも多く、できるものはすぐに対応し、管理者に報告するようになっている。	○	なかなか訪問できない家族からの意見や要望を聞く機会として、誕生日や行事のときなどに家族を誘うことも考えている。定期的な報告の機会と併せて取り組みを充実していくことに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職等があったときには、入居者が寂しい思いをしないよう「辞めた」と言わないような説明の仕方をしている。職員の交代があったときは周りの職員がサポートし、また管理者がアドバイスをしたりしながら、入居者に影響がでないように配慮している。		

認知症高齢者グループホーム四季の花

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しい職員には、先輩職員が2週間ほどつき、また管理者もアドバイスをしながら一人立ちさせている。職員会議（月1回、おおむね19:00～21:00）の際に食事マニュアルなどの勉強会をしている。外部研修の案内があったときは、法人、あるいは管理者が適切な職員を選んで受講させたりもしている。外部研修受講後は資料をファイルするなどして共有に努めている。	○	認知症介護実践研修などは順次受講している。今後も計画的に外部研修の受講を進めたり、内部の勉強会を充実させていくことに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のサービス事業者連絡協議会に参加している。また、法人内に当ホームを含めて2か所のグループホーム、3か所の小規模多機能型居宅介護事業所があり、毎月それぞれの管理者が集まる運営会議がある。	○	市のサービス事業者連絡会議に、より積極的に参加し質の向上に活かしていくことに期待したい。また、法人の特徴を活かして、他ホームや事業所とともに質の向上を図っていくことも期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に自宅に訪問したり、事業所を見学してもらい本人の話を聞き不安解消に努めている。また、安心できるように、使い慣れたものを持ってきてもらうように話をしたり、本人らしい時間をつくることに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として、本人らしさを大切にしながら、入居者ができることは一緒に行うようにしている。洗濯物のたたみ方や針仕事など、生活の中で入居者から教わることも多い。		

認知症高齢者グループホーム四季の花

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
<p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員の担当制も取り入れながら、生活の中で入居者の希望や要望をくみとり、本人本位に検討している。介護計画のほかにアセスメントも兼ねた個別介護マニュアルを作っている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当職員制を取り入れたり、職員会議の中で入居者のケアについて話し合ったりしながら介護計画を作成している。</p>	○	<p>ホームとしては、今後ケア会議的なものをもっていきたいと考えている。管理者、職員の言葉からは、本人らしさや一人ひとりの個性を大切にケアをしていきたいという考えが聞かれたので、本人、家族、職員、関係者と共にその人らしい生活の支援に向けて、計画作成の過程を充実していくことにも期待したい。</p>
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>半年を基本として定期的に介護計画の見直しをするほか、入居者に変化があった時などには職員会議の場も活用したりしながら、その都度見直しをしている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入居者と職員1対1で車で買い物に出かけたり、通院に付き添ったりと本人の希望や家族の状況などを踏まえて柔軟な支援に努めている。</p>		

認知症高齢者グループホーム四季の花

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続について確認しているが、ホームの協力医療機関に主治医を変える方が多い。基本は家族が通院対応することとなるが職員が付き添うこともある。また、通院記録簿、経過観察記録、通院報告書などを作成し、適切な医療が受けられるよう配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者や家族の希望があれば対応する必要性を感じており、重度化や終末期のあり方について職員間で話し合いを行い共有を図っている。	○	以前は往診をしてくれる医師を確保していた。要介護度の高い方も多く、今後想定される状況を検討し、必要な機関や社会資源の確保等の必要な準備や家族との、あるいは職員間の話し合いを繰り返し行っていくことも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	例えば食事について、あらかじめ魚の骨を取っておき入居者のできる力を活かしてプライドを傷つけないようにしたり、トイレに暖簾をかけておくなど細かなところでも配慮が見られる。個人記録等は事務室で保管し、プライバシーへの配慮もしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やお茶の時間は決めているが、その他は日課を特に決めておらず自由に過ごしてもらうようにしている。飲み物など選択する機会もつくっている。		

認知症高齢者グループホーム四季の花

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや片付けなど、入居者のできることに配慮しながら一緒に行っている。職員も必要に応じて介助をしながら、入居者と同じものを一緒に食べていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な入浴時間帯を午後とし、入居者の入りたい時間に入浴できるよう支援している。入浴の苦手な方に対しては声かけの仕方を工夫したりしながら1日おきには入浴できるよう配慮している。入浴剤を入れたり、ゆず湯や菖蒲湯など季節に応じた配慮もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干し・たたみ、おしぼり配り、草むしり、水やり、縫物、野菜栽培、花見などの外出等、役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。入居者は比較的ゆったりと過ごすことが多い。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の要望に応じた個別的外出や花見・紅葉がり等の行事的外出の機会を設けている。また、洗濯物干しや草むしり、水やりなど日常の中で戸外にでる時間もつくっている。現在、庭は砂利敷きになっているが、芝生敷きにすることも検討している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関に鍵を掛けず、職員の見守りのもと自由に外出できる環境をつくっている。管理者は開設当初に周りに挨拶にまわり、地域の見守りの目も期待できる状況がある。		

認知症高齢者グループホーム四季の花

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練（自主訓練）を年2回実施している。消防署には挨拶をしている。	○	今後、消防署との連携を深めたり、避難訓練を実施する際に地域の方にも声をかけてみるなど、いざという時の支援体制を構築していくことを期待したい。また、備蓄等の必要性についても検討しておくことを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は1月単位で作っている。2日に1回は食材の買い物に出かけている。いただき物や差し入れでメニューに変更が加わることもある。季節のものを取り入れるようにしている。食事は日誌に記録しており、日誌の他に個別の健康記録があり、水分の摂取状況も確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的にあまり飾り物や貼り物等をしておらず、花を飾ったり、こいのぼりなど季節感の感じられるものを飾っている。テーブルの配置なども見た目ではなく使いやすさに配慮して配置している。日差しは季節によっては、よしずを用いて遮っている。気になるような音、空気のだよみ等はなかった。和室におかれたソファが入居者のお気に入りになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の安心感のためにも使い慣れたものを持ってきてもらうようにし、家具等が持ち込まれ、それぞれの居室づくりに配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。